福光地域 会議録

件名	エンジョイふくみつ（福光地域提言実現検討組織）による第８回会議		
日時	令和４年６月２３日（木）19:00～21:00	場　所	福光会館（旧ベル）２階サークル室３
出席者	検討組織メンバー（現地参加）10 名、（オンライン参加）１名、傍聴参加１名、事務局（政策推進課）３名		
内容	①にぎわいづくりの方向性の確認、②今後の進め方について		

概要

◆①にぎわいづくりの方向性の確認（資料１）
（〇…代表発言、●…メンバー発言、→事務局発言）

（事務局から資料の説明）

→どんなまちづくりを目指すかが一番のポイント。元々のまちづくり検討会議からの提言を実現できるのかが重要になってくる。

●共通認識等については私も同じ。セルフリノベ塾についても事業計画があると分かりやすい。福光は小矢部川がまちなかに通っているので、そこをテーマにするのが良い。セルフリノベ塾だけでまちを盛り上げるというよりは、盛り上げるツールの一つである。

〇私もセルフリノベ塾はコンテンツの一つとの認識している。提言の３テーマを並行してやるのか、あるいは、優先順位を付けてやるのか。この会議では３テーマ同時に進めることは困難と思われるので、ある程度の取捨選択は必要と認識している。

●セルフリノベ塾を走らせながら、他の企画は準備をしながら、というように、かわまちづくりの全体計画の中で部会ごとに企画を進めていき、定期的な全体会議の中で進捗確認をするのが良いと思う。

●私も同意見。小矢部川に特化していれば、検討がぶれることがなくて良いように思う。大きな柱について合意が得られれば、それに必要な活動が出てくるように思う。

●これまでの議論は合意の形成だと認識していた。ある程度活動を走らせながら、部門ごとに了承を取りながら決まった活動から進めるのが良い。

●今ほどの説明で再認識した。出来るものから実行していけば良い。

●資料左側にあるそれぞれのアクションを深掘りして皆さんで取り組めたり、周囲の人たちを巻き込めるような仕掛けを考えたりしていけると良い。

●核になるものを決定してから進めないと、周りまで波及しない。小矢部川を中心とした内容で、皆さんとプランを立てたい。

●この資料を見ながら、私たちがこの会議で何を話していくべきか、何をしていくかを、これまで以上にしっかりとよく見て考えなければならない。福光としては小矢部川をメインにしていかないと、この会が何をやっているのか市民に納得してもらえないだろう。今すぐ出来ること、市民と一緒に出来ることなど、小さいことでも良いので実績を積み重ねていくことで、この会を市民に認めてもらわないと、私たちが勝手にやっているようでは良くない。そのために何が出来るのかをみんなで考えを出し合って、月１回の会議だけでなく、必要な時に集まって話し合えるようにしたい。

●私の思いと全く同じ。小矢部川を核とするのであれば、何が必要かしっかりと考えないといけないし、たくさんの人を引き込まないと進まないと思う。

●前回の会議では皆さんの思う賑わいについて聞けなかったので、どんな賑わいのイメージを持っているのか改めて伺いたい。その上で、にぎわいづくりについて皆さんの共通認識を持てれば、後々ぶれることのないまちづくりになると思う。

●これからの進め方として、セルフリノベ塾は、プレーヤーや挑戦者等の人材創出するイメージと地域課題解決に対応していくとの両面で進んでいくと感じている。

〇一通りご意見を伺って、キーワードは小矢部川だと改めて確認した。
続いて、自分の考えるにぎわいについての思い等を全員から伺いたい。

●人とのつながりを大切にしたいことをベースにしながら、地道な活動がにぎわいにつながるものと考えている。

●私も全く同じことを考えている。小矢部川を中心に、当たり前に人と人とがつながる場所になっていくと良い。今は、それが当たり前ではないので、ハード面の整備もしていくことで人と人とがつながる場所になればと思う。

●今まで誰もいなかったところに人がいることがにぎわいだと思う。

●衣食住の安心安全が大前提で、目先の楽しいこと、将来に向かった希望があると良い。

●外から人を呼び込むことも必要なこと。

●にぎわいづくりは人だと思う。どんな形の良いものを作っても、人が来ないとダメ。きっかけを作るべき。

●ちょっと上品な雰囲気、ちょっと楽しい、心が晴れ晴れする、行ってみたい、という場

所がにぎわう場所だと考えている。
●住んでいる人が「福光がいいよね」と友達に口コミで伝わっていくと良い。そのためには日々の生活が、安心して、安全であれば、「福光においで！」と呼べるようになると思う。
●人の暮らしに寄り添うことが下地にないと、にぎわいにはつながらないと思う。暮らしに寄り添うことをしていきたい。小矢部川のにぎわいについては、暮らしに寄り添うことを含めて、例えば、庁舎の本館と別館の間にトイレや売店などが出来るとよい。
●小矢部川だけがにぎわうのではなく、まちなかにも人が歩いてくれるような仕掛けが必要。
●福光を意識した時に、各種団体や組織がどういったイメージでどういった活動をしているのかが見えないので、各種団体や組織のつながりや、人や地域のつながりで「三方良し」となるのが良い。そうすれば、移住者や観光客など、外からの人を呼び込むことが可能。

◆②今後の進め方について　（〇…代表発言、●…メンバー発言、→事務局発言）
〇皆さんの意見から、小矢部川に焦点を絞って、アクションを起こす方が良いと思っている。先のご意見のように、口コミで広げていくための仕掛けが必要。
●小矢部川だけだと町なかに人が歩いてくれない。まちづくり検討会議の議論の中でも、提言を出す前の段階から、町なかにウォーキングコースを作って花などを飾れば、平日でも町なかに人が歩いてくれるという話が出ていた。それが、小矢部川と福光公園と福光会館の３か所をつなぐようなコースであれば、夜であっても歩道があり歩きやすいように感じる。里山の川と町なかとをつなぐことも出来るだろう。
●この後、どのように優先順位を付けて進めていけばよいか。
●現実的な話にしていきたい。例えば、ウォーキングも銘々のコースを回るだけでなく、一定の長さを表示してみるとか、サイクリングと組み合わせてみるとか。実際に、どんな整備をするのか、ベビーカーが河原に降りやすくするにはどうしたら良いのかなど具体的な話をしていけばどうだろうか。
〇小矢部川には、制限があるかと思うがいかがか。
→小矢部川は河川なので、市で対応できない部分はある。ただし、小矢部川河川公園は都市公園として市が管理しているので、河川法の範囲の中で公園機能であれば対応可能な部分もあると思われる。
●公園整備の一環であれば対応できるということで良かったか？
→具体的な検討に入る前に、まちづくりの方向性が３つあったと思うが、皆さんの思いと合致しているかどうかを確認していただきたい。その上で、３つのまちづくりの方向性を活かしながら小矢部川を使ったにぎわいづくりをどのように進めていくのかを決めていただきたい。
●例えば、まちづくりの方向性のそれぞれの部会を作って話を進めながら、また全体で話をするということも一考かと。
→各部会で具体的な内容を詰めてもらって、全体でまとめていくのが良いかもしれないが、そこは皆さんで決めていただきたい。かわまちの話は、実際にお金が必要になった段階からでも間に合う。市とすれば、福光地域だけでなく全市的な視点で判断していくことになる。
〇事務局から提案があったが、小矢部川を核として、まちづくり検討会議からの提言の「まちづくりの方向性」の①②③で部会を作って、その部会ごとに内容を絞り込んでいくのはどうか。
●グループ分けの出発点はアクション（左側）ではないのか？
→市民に説明して、唯一合意を得ているのが提言（右側）である。提言を基に、アクションを入れ込んだ方がこれまでの検討の流れと合致している。
●今後アクション案が多くなるかもしれないが、提言に沿っていることを意識しながら、考えていった方が良いという趣旨だろう。また、複数にまたがるアクション案もあるだろう。
→何を目指すということを意識してもらえると良いだろう。
●せっかく議論するのであれば、まずは、イメージパースのようなもので、ハード面も含めて議論を深めたい。想像するだけで楽しい。来年６月のかわまちづくりの申請に向けて、このくらいのチャレンジがこの会で出来ないだろうか。かわまちづくりの補助事業にチャレンジしたい。大きい目標が無い中で、小さな目標を目指すのは難しい。地図を広げて、具体的な内容を妄想してはどうか。
●メンバー全員で、１つの小矢部川のにぎわい創出の絵を描く方向で進めるのか、それと

も、部会に分かれて進めるのか、どっちの方向にするのが良いのだろうか。
〇まずは一回絵を描いて妄想し、にぎわい創出のみんなの思いを１つにしたい。今グループに分かれても、小さい話で終わってしまうだろう。次回は、地図を置いて、銘々に思いを載せてはどうか。実寸版でなくてよいので、小矢部川沿いを大きくした地図のようなものがあると良いが、事務局で準備可能か？
→承知した。
●好きなことを言い合うのであれば、月１回と言わず、２週間後にでも集まってはどうだろう。
●みんなで絵を描くのは賛成。
●リノベ塾は、日程を詰めて進めていたのですぐに取り掛かれないとなると、一旦、引いた方が良いか。
●話し合いでみんなの合意が得られて１つでも２つでも実行されるということであれば、セルフリノベ塾の実施が間に合わないと判断するのはまだ早いと思う。条件の良い物件があれば、塾が出来るのかどうかを検討して、来年度の実施をある程度見込めるような事業計画を作成してはどうか。
→進めたいということであれば、まずは皆さんの意見がまとまることが必要。セルフリノベ塾も事業計画があると皆さんも理解しやすいだろう。かわまちも同様で、福光地域に限らず南砺市全体を意識して計画を立ててもらうとこちらも判断しやすい。
●全市的にも必要だというストーリーが書けると良い。例えば、市庁舎の裏手にある小矢部川を活用して市民の集える場所を、といった内容が書きやすい。計画全体の流れの中で、地域の皆さんによる既存のイベントも盛り込めば、住民の皆さんの理解も得やすい。
→次回の妄想についても、プランを立ててもらいたい。
〇次回の会議日程は、また調整したい。

（以上）

◆次回会議

日時…令和４年７月 12 日（火）19：00～21：00
場所…福光会館（旧ベル）２階サークル室３
内容…地域のにぎわいづくりに向けて　ほか

提言実現検討組織 と まちづくり検討会議 比較してみました

●目指す未来
「古きを活かし新しき暮らしを創るまち」

まちづくりの方向性が目指す未来

●まちづくりの方向性
「今あるものを活かしたにぎわいづくり」

実現に向けた取組

●プロジェクト名
「小矢部川からはじめる新旧街里プロジェクト」

【取り組むアクション】

1. アキないづくり
   - 1ⓐ セルフリノベーション塾
   - 1ⓑ オーガニックカフェ
   - 1Ⓒ 農泊体験
2. 小矢部川にぎわいづくり
   - 2ⓐ 川沿いの環境整備
   - 2ⓑ 河原マルシェ
   - 2Ⓒ 川沿いの空家活用
3. 情報の集約と発信
   - 3ⓐ たまり場(コミュニティカフェ)
   - 3ⓑ なんと新聞福光版
4. その他
   - 4ⓐ 歴史の道「殿様街道」整備
   - 4ⓑ 地域資源発見隊
   - 4Ⓒ 共存共栄の策を考えよう
   - 4ⓓ アートギャラリー

自分ができること、すでに取り組んでいることも含めて

実現に向けた取組

①情報の集約と発信できる居場所

人と情報が交流することで共感が得られる居場所づくり(安心できる場)

- 情報集積・発信、人と地域、行政、関係機関とをつなぐ場所
  3ⓐ 3ⓑ
- 多様な人からの様々な丸ごと相談窓口の設置と弱者支援
  3ⓐ 3ⓑ

②まちなかエリアを回遊できるまちづくり

様々な人々が集い、まちの歴史を感じ、健康づくりをしたり、楽しめる環境をつくり、まちなかを活性化する(多くの人々が出歩く)

- 福光福祉会館周辺に多世代で利用できる全天候型の居場所設置
- 空家や空店舗を活用したお散歩の駅の設置
  1ⓐ 1ⓑ 1Ⓒ 2Ⓒ 4ⓓ
- 街中周遊散策コースの設置
- カフェ、シェアキッチン、遊び場の整備で多世代交流
  1ⓐ 2ⓑ
- 小矢部川の環境整備
  2ⓐ

③里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

里山の魅力を再発見し、まちなかとつながりを深める(里山も活性化)

- 里山の魅力発見イベントの開催と農産物の街なかでの提供
  1Ⓒ 4ⓐ 4ⓑ 4Ⓒ
- 里山マイスターから学ぶ体験活動
  1Ⓒ

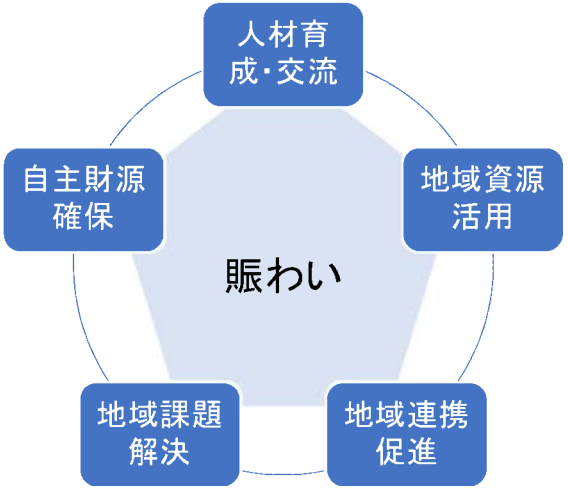
みんなで取り組む視点 → 取り組む優先順位(ソフト・ハード) → どんな賑わいをつくる

事　業　計　画　イ　メ　ー　ジ

a. セルフリノベーション塾…創造・挑戦する人を育て、繋ぐ

エンジョイふくみつとして関わるための仕組みが必要

いつ（When）？	○月　～　○月
どこで（Where）？	●●●（物件名）
だれが（Who）？	エンジョイふくみつ
なにを（What）？	リノベーション塾（DIY塾）
なぜ（Why）？	自ら空家を改修して 起業しようとする人を育てる
どのように（How）？	・・・



対象者、費用、内容、講師、募集方法、参加費、受講者を起業させるまで等

福光地域のにぎわいを実現するため、エンジョイふくみつが空家を活用して継続的に起業家を育てる仕組みづくりに対して支援

かわまちづくり（概要）

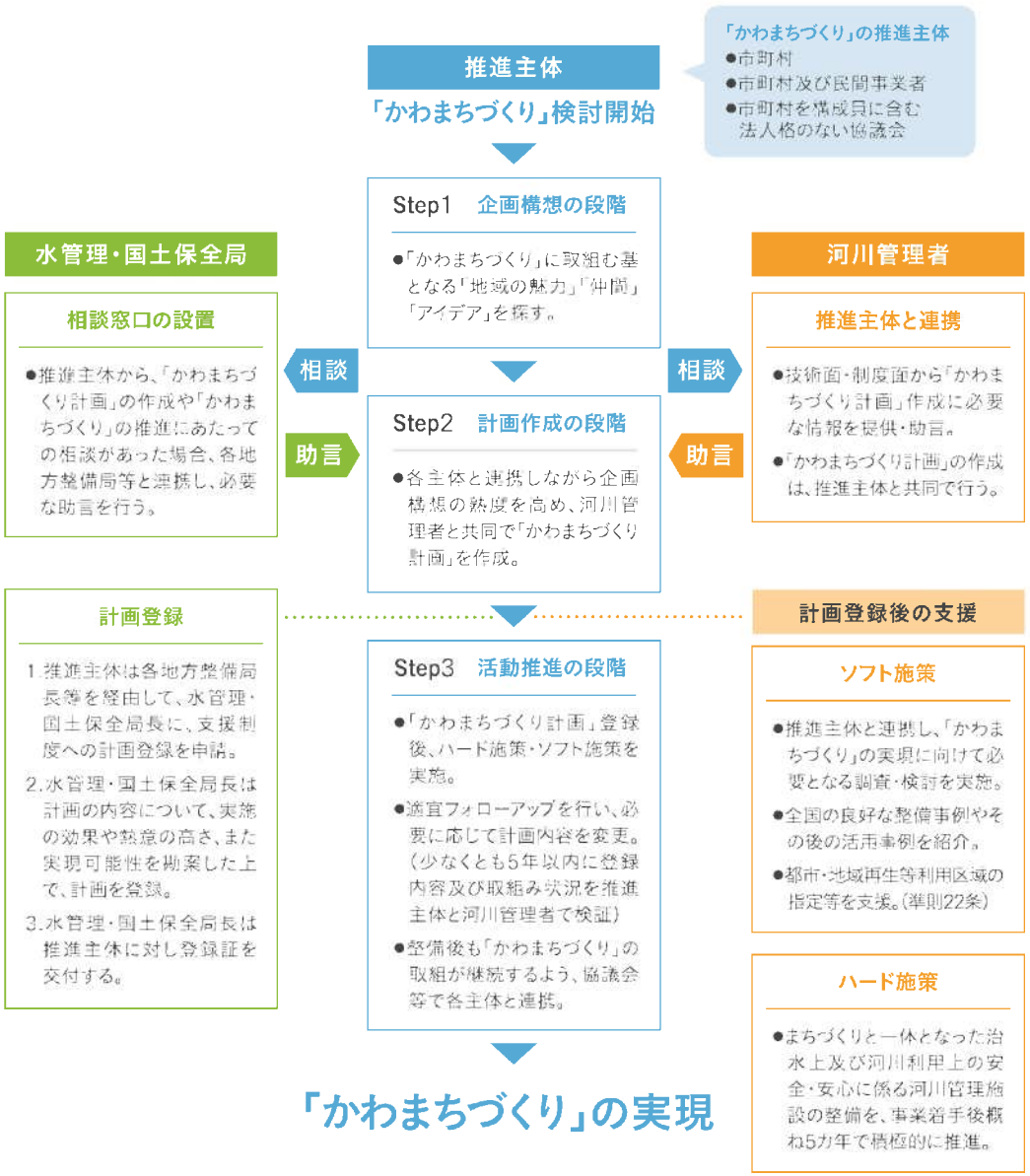
●かわまちづくり支援制度とは

地域のかわまちづくりの取り組みを河川管理者が支援する制度で、河川管理者と共同でかわまち計画を作成し、支援制度に登録された計画に基づき、必要なソフト・ハードの支援を行うもの。

●推進体制

河川管理者と連携してかわまちづくりを推進する主体は次のいずれか。

①市町村
②市町村及び民間事業者
③市町村を構成員に含む法人格のない協議会



●河川管理者の支援

河川管理者は、支援制度に登録されたかわまちづくり計画に基づき、次の支援を行う。

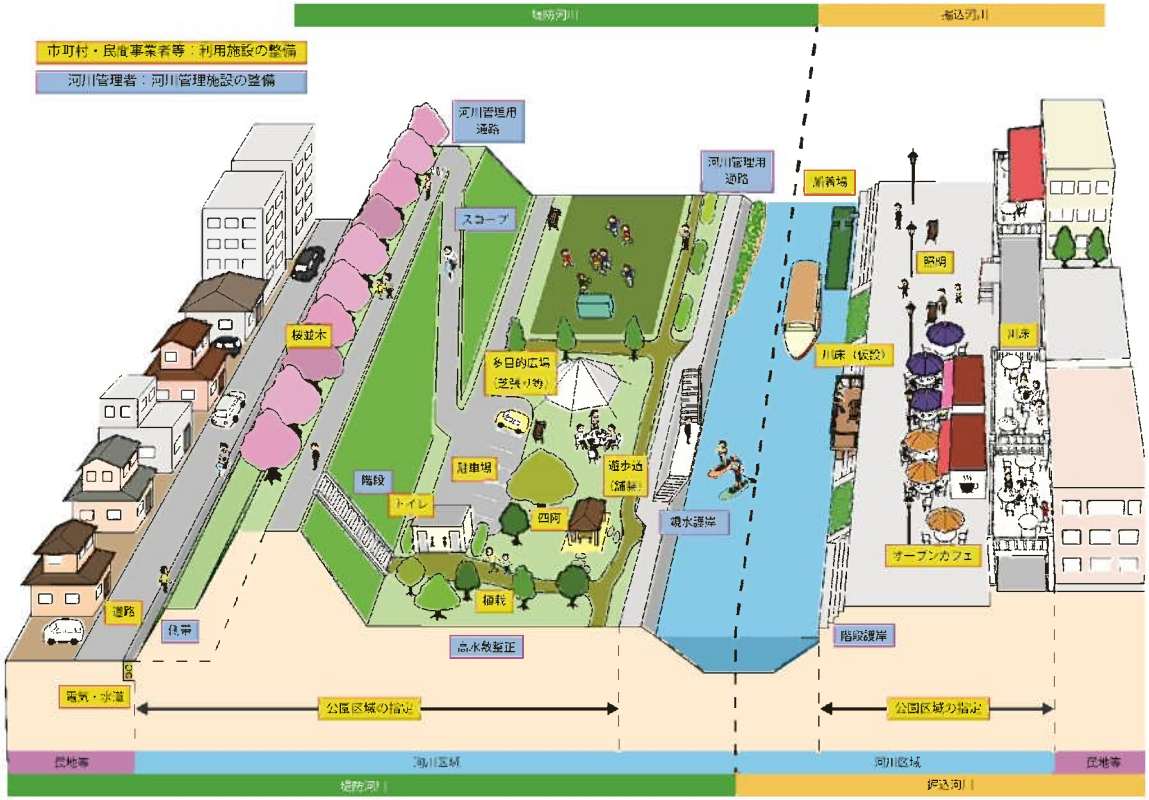
【ソフト施策】

①推進主体と連携し、かわまちづくりの実現に向けて必要となる調査・検討を実施

②全国の良好な整備事例やその後の活用について、推進主体に情報を提供

③地域活性化の観点から地域が主体となって実施するイベント施設やオープンカフェの設置等、河川空間を活かした賑わい創出や魅力あるまちづくりに寄与し、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とするため、河川敷地占用許可準則第22による都市・地域再生等利用区域の指定等を支援

オープンカフェ



【ハード施策】

①河川管理者は、まちづくりと一体となった治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を、事業着手後、概ね5ヵ年で積極的に推進